実践報告

日米 Map Project
―e-Learning と合同合宿を通した異文化交流と社会貢献―

Japan-US Map Project
―Students' cross-cultural exchange and social contribution through e-Learning and the three-day seminar―

石川県立大学　教養教育センター　新村 知子・桑村 佐和子・山岸 倫子
生産科学科　髙原 浩之

１．はじめに

今回の取り組みは、2011 年度の石川県立大学教育改善プロジェクトとして採択されたものである。このプロジェクトでは、石川県立大学の近辺にある二つの地区のまち歩きマップについて、日米の同世代の大学生たちがオンライン上でその英語版を共同で作成し、その後合宿形式で共同学習・交流を行うことにより、それぞれがお互いの言語、社会、文化など、多くのことを学び合った。

英語版を作成するマップは、石川県立大学の近くの二つの地区（具体的には、野々市市内で古い街並みが残っている本町地区と白山市の中でも歴史と伝統的な部分が豊かな鶴来地区）のものである。どちらも、全国的には知名度の低い小さな地域ではあるが、歴史、文化的な視点から興味深い場所が多いことから、外国人観光客にとって魅力的な地域である。これらの地域を英語で紹介できれば、日本人学生も日本文化や地元の歴史･地理について新しい視野から学ぶことができ、双方の学生たちにとって学ぶことが多いと考えた。

また、この英訳活動を行うにあたっては、石川県立大学の Moodle 上のフォーラム（掲示板）で各学生が意見を交換できるように設定した。これにより、２月に予定されている合同合宿の前に、この英訳作業を通じて異文化間コミュニケーションを取りながら、お互いについて学び共に作業をする機会を持つことができた。合宿前に一つの目標に向かって共に努力したので、チームとしての意識も芽生えた。さらに、合宿開始後は、マップの英語版という共同で創りあげた作品があったので、発表会や地域へのフィールドワークへの活動への移行が非常にスムーズに行われ、そのことが学生たちの達成感が高い充実したプロジェクトになった主な要因だと考えている。

２．プロジェクト実施の経緯と目的

石川県立大学では、2 年次の必修英語の授業の中で、アメリカ合衆国インディアナ州にあるローズハルマン工科大学の学生とのオンライン上でのメッセージ交換を、2007 年から毎年実施している。これは、ローズハルマン工科大学のスコット・クラーク氏の提案により始まったもので、日本文化を学ぶアメリカ人学生と英語を学ぶ日本人学生が、お互いに直接やりとりを通じて学ぶ機会を Moodle のフォーラム上で持っているものである。この活動により、学生たちは同年代のパートナーと、一対一で掲示板上を使って実際のコミュニケーション活動を行い、中学・高校から学んできた英語を使ってコミュニケーションを行った。その結果、実際にコミュニケーションの目的で英語を使うのは、全く初めてだという日本人学生たちが多かった。その後のアンケート結果によれば、彼らの多くが「初めて自分の英語が本当に通じることを知った」と感じ、大きな感動と達成感を経験した（新村. 2010）。

その活動を始めて2年後、ローズハルマン工科大学で「学生たちに国際的な体験をさせたい」という意向で9名の学生を石川県立大学へ送る計画が企画され、2010年2月に2泊3日の日米の学生文化交流活動が行われた。

この合宿を企画する際、クラーク氏から「合宿の間、3日間楽しく過ごすだけでは、学びとしては不十分なので、合宿をする前に日米の学生で一緒に何かを作り上げ、共に学んだという達成感を持てるタスクを考えよう」と提案があった。いろいろ議論する中で、石川県立大学の広報ビデオの英語字幕を作るというタスクが選ばれ、日米各9名の学生たちをこれに取り組ませた。合宿が開始したときには、事前にオンライン上で一緒に作業している学生たちは、実際に会ってからもスムーズに話ができ、合宿で行った活動もとても実りの多いものであった。

この2010年に初めて行った「オンライン上の共同タスク活動＋合宿」というプロジェクトの延長線上に、今回のプロジェクトはあると考えることができる。今回参加したアメリカ人学生は2倍以上の20名、アメリカ側の引率教員も2名になった。受ける側の石川県立大学の参加学生も同様に増えて25名、引率教員は4名である。つまり、前回は学生・教員合わせて20名だったのが、今回は50名以上のメンバーがこのプロジェクトに参加していることになった。このことで、さらに大規模なタスクに取り組むことが可能になった反面、関わる人数が多いので、すべての活動に周到な準備が必要であった。

前回がビデオプロジェクトだったのに対し、2011年の共同プロジェクトは日米Map Projectと称し、石川県立大学がある野々市市の本町地区と白山市鶴来地区の2か所のまち歩きマップ英語版を作るタスクを中心に企画された。また、合宿中の活動もこのタスクに関連したものを多く取り入れた。たとえば、マッププロジェクト発表会のリハーサルは、全員が二ヶ国語で行われるプレゼンテーションに何らかの形で参加できるように、各学生の役割を細かく分担し、一人ひとりにとってプロジェクトを通して得られる学びや達成感を確保できるようにした。

具体的には、表1に示した流れでMap Projectは進められた。つまり、9月にまず教員がこの二つの地区をまわって事前学習会を行い、続いて10月に参加予定の学生たちの事前学習会を実施し、直後に学生たちにマップ英訳の方法を説明し、分担箇所を示した。11月から12月には、日米の学生でそれぞれが担当するマップ説明の英訳を行い、それをMoodle上に提出してもらった。そして、最後に1月に教員が加わり全体のチェックを行った。英訳マップが完成すると同時に、2月に実施する合宿の準備に入り、数回の学生との準備ミーティングを経て、2月26日から28日に2泊3日で合宿が行われた。

表1　Map Project の流れ

時期	活動
9月	マッププロジェクト担当教員の野々市、鶴来の事前学習会
10月	学生のための野々市・鶴来のまち歩き事前学習会
11月	日米の学生間で英訳についてのMoodle上のやりとり開始
12月下旬	マップ英訳原稿完成、教員の校正
1月	教員、地元協力者による原稿の校正
	Map Project 合宿・発表会準備ミーティング
2月	Map Project 合宿・発表会準備ミーティング
	Map Project 合宿　(2/26-2/28)

3．英訳に使用した地図

前述したように、今回英訳に取り組んだのは野々市市本町地区と、白山市鶴来地区の2か所の地図である。

（1）野々市市本町地区

野々市市の本町地区については、「ボランティアガイドののいち里まち倶楽部」の中で、まち歩きマップを作ろうという計画があったものの、このプロジェクトがスタートした時点ではまだマップができあがって

いなかった。したがって、このプロジェクトをきっかけに、ののいち里まち倶楽部では日本語のまち歩きマップを作成することになり、そちらの作業も急ピッチで進められた。つまり、日本語版ができしだい英語版に取り掛かるという形で、本町地区の地図（図１）とのっティの運行ルートを含めた広域の地図の二枚が英訳され、日本語版とともに野々市市産業振興課によって印刷されることになった。

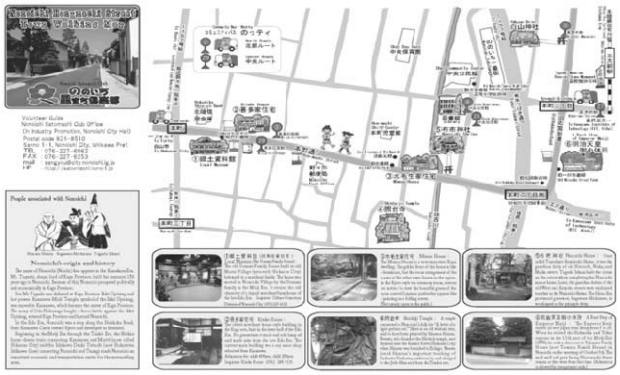

図１．野々市市本町地区の英訳マップ（２枚のうち１枚目）

野々市市本町地区マップの内容としては、地図の表に、まず野々市の歴史、郷土資料館、喜多家住宅、水毛生家住宅、照台寺、布市神社、明治天皇御小休所の説明と地図の各地名が入った。裏には中心の部分にのっティルートと各地名を、またその周りに野々市市の様々なお土産品、特産品等の紹介を載せたものになった。

（２）白山市鶴来地区

鶴来については、県観光マイスターである辻貴宏氏の協力を受け、「まちの駅獅子の里つるぎ推進協議会事務局（鶴来商工会内）」が出している「獅子の里つるぎ」という日本語版のマップを英訳することにした。このマップは３枚から構成されている。まず、１枚目が鶴来地区全体の紹介や祭りや行事の説明（図２）、２枚目が鶴来の広域マップとその地区の観光地の説明、３枚目が鶴来周辺部の地図と観光地やウォーキングコースの説明という構成になっている。

参加学生は、野々市のマップに取り組む野々市グループ21名（後に20名になる）と、鶴来のマップに取り組む鶴来グループ25名に分かれて、それぞれの分担箇所についてパートナーと二人で英訳作業を行った。

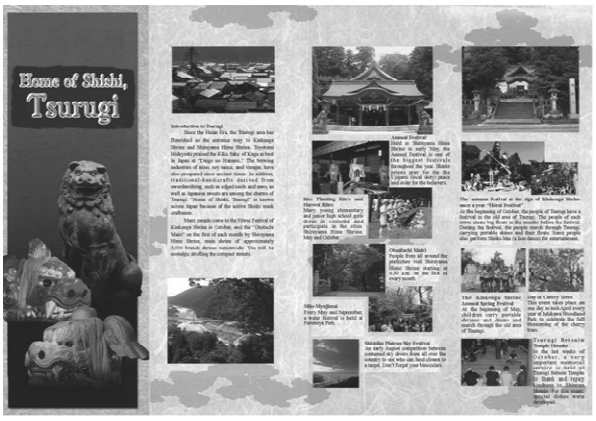

図２．鶴来地区英訳マップ（３枚のうち１枚目）

４．活動の概要

日米Map Projectは大きく分けて、⑴11月から１月にかけてオンライン上で行ったマップ英訳活動と、⑵２月の末に金沢市内で行った合同合宿という２つの部分からなっている。

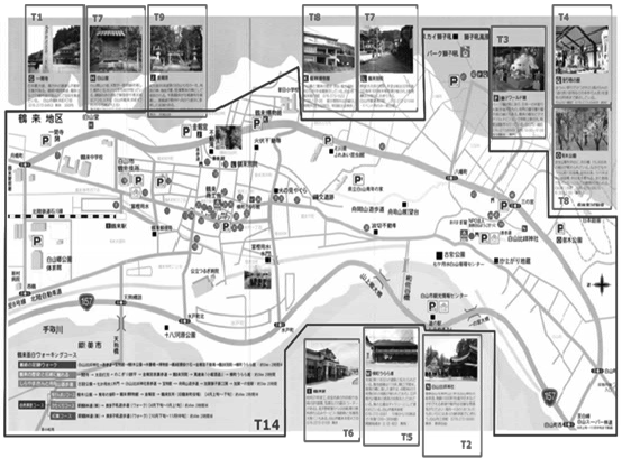

図３．パート別に分けた地図

（１）オンライン(Moodle)上でのマップ英訳活動

この活動に参加している学生は、アメリカ人20名と日本人26名（活動中に１名抜けて25名となる）であったので、野々市と鶴来の地図の英訳する箇所を26のパートに分け、26名の日本人学生にそれぞれ１名のアメリカ人パートナーと組ませて、ペアで各部分の英訳に取り組ませることにした（図３）。ただし、日米の人数が同数でないために、アメリカ人学生の中には２

人の日本人学生と2か所の英訳に取り組む学生が6名いた。

まず、この各部分を日本人学生がアメリカ人学生に意味が分かるように、自分のできる範囲で英語に訳し、それをMoodle上の掲示板で自分のパートナーに伝える(図4)。アメリカ人学生は、意味の分からない部分を日本人学生に質問したり、意味や背景を確認したりしながら、少しずつより分かりやすく自然な英語になるように二人で文章を作っていく。12月末には、学生たちで作った完成原稿をMoodle上に提出してもらい、冬休みに教員がチェックを行った。

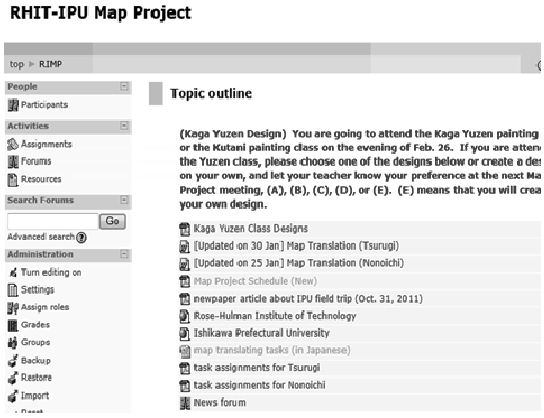

図4．Moodle上の掲示板

チェックの過程で分かったことは、一つひとつの部分が、ある程度英語として整っていても、全体として見ると統一されていない部分や、学生たちのリサーチが不十分なために地名の読み間違いや意味の取り違いなどがかなり残っていたということである。これを地元の協力者の情報提供も受けて、日米の教員で何度もチェックし訂正を行ったのち、冬休み明けに再度最終版として再びMoodleにアップロードし、学生たちに最終英訳版を確認してもらった。

このプロセスを経て、1月末に野々市は野々市市住民生活部広報情報課に、鶴来は印刷業者である南敏康氏に送って、それぞれ地図に文字を埋め込む作業が行われた。この時点でさらに文字数やレイアウトなどの点で工夫やチェックが必要で、何度も教員を中心として推敲が行われた。こうしてできあがった地図が、野々市のマップは市の産業振興課で、鶴来のマップは石川県立大学で印刷された。この完成したマップが日米合同合宿で学生たちから各地区の代表者に贈呈され、それを使って学生たちのまち歩きが行われた。

（2）日米合同合宿

日米合同合宿は、2月26日から28日にかけて、3日間にわたって行われた。具体的には、学生たちの文化活動（アイスブレーキング活動、和太鼓体験教室、加賀友禅教室、九谷絵付け教室）、完成した地図のお披露目と贈呈式（そのリハーサルも含む）、自分たちがマップ作りに取り組んだ場所を訪れるフィールドワークなど、非常にたくさんの活動を盛り込んで計画された（資料）。

図5．日本のお風呂の入り方

アメリカ側の事前ミーティングでは、日本の文化の紹介や旅行のために必要な知識も扱われ、その中には「日本のお風呂の入り方」という項目もあった。これを聞いた日本人教員からは、「今の学生たちは、日本の大きなお風呂の入り方について知らない学生もいるのではないか」という意見が出て、同じ教材を使って、県立大においても学生に対して同様な説明を行った（図5）。

合宿１日目の朝、学生たちはみんな緊張している様子であったが、日本人学生有志のリードにより、さまざまなアイスブレーキング活動を行ううち、あっという間に打ち解けて仲良くなった（図６）。２年前の合宿の時は、教員主導でさまざまな活動をしようとして、なかなかうまく行かないことがあったが、今回は学生主導ということをキーワードにした結果、全体の活動がよりスムーズに進行し、さらに学生たち自身が学ぶことも多かったように思う。

図６．アイスブレーキング活動

２日目の午後は、小グループで金沢観光に行く予定になっていた。この時どこに行くかについても、先に設定した観光グループ別にMoodle上で話し合いが行われ、当日は兼六園・金沢城公園、近江町市場、東茶屋街、忍者寺など、各グループで決めた観光ルートに従って活動が行われた。各グループは、観光地を回り、食事をとり、プリクラやカラオケなど日本の若者が楽しむのと同じようなものを楽しんで、はじけるような笑顔で研修センターに帰ってきた。金沢観光を自由に行ってからは、緊張が解けて学生たちが本当に元気になり、それぞれが自分で話しかけ、様々な活動を通して、とても能動的に動くようになったと感じられた。

５．日米Map Project発表会とフィールドワーク

合同合宿の準備をしているときに、このマップ英訳活動をプロジェクト発表会として一般に公開しようということが提案された（図７）。そのために、発表会のプログラムやポスターを作り、合宿前に日本人学生だけで３回リハーサルを行った。最初は下を向いていたり、原稿を棒読みしたり、漢字の読み方を間違えたりする学生もいたが、リハーサルを重ねるうちに、お互いのプレゼンを見てコメントを交換し、少しずつより分かりやすく、聞き手にアピールする発表ができるようになった。

図７．Map Project発表会のポスター

各大学でリハーサルを行っていたが、合宿の１日目には日米合同のリハーサルが開催された。ここでは、初めて二ヶ国語でのプレゼンテーションで一番の鍵となる言葉の転換に焦点をあて、英語話者から日本語話者、そしてまた英語話者への転換がスムーズにできるように練習をした。今年のプロジェクト発表会では、司会もすべて学生たちが担当したため、準備段階ですべてを決定する必要があり、教員も非常に忙しい思いをしたが、発表会が学生だけで行われたことは、学生たちの達成感やプロジェクト全体の成果としても大きいものがあった。このプロジェクト発表会の式次第は以下のようなものである。

2 月 27 日（月）　10:00-11:00

石川県立大学大講義室（K219）

Map Project 発表会と贈呈式:

プログラム

1. 開会宣言　Opening Address
2. 石川県立大学　学長挨拶　Welcome Speech by IPU President
3. 大学紹介 Introduction of IPU & RHIT
4. プロジェクト紹介　Introduction of the Project
5. 市・地区紹介とマップ紹介　Presentation of the Map
5. 贈呈式 Presentation Ceremony
6. 教員挨拶　Messages from Teachers
7. 閉会宣言 Closing Address

図８．Map Project 発表会

当日は、石川県立大学松野隆一学長をはじめ学内教職員に加えて、野々市と鶴来の地元の皆さん、一般市民にも出席して頂いた。学生たちのプレゼンテーションは教員の予想を上回る出来で、学生たち自身のチームとしての達成感も非常に大きいものがあったことが見ていても分かった。発表が行われた後、贈呈式を行い、完成したマップのパネルが、ののいち里まち倶楽部の帆刈宏典会長と県観光マイスターの辻貴宏さんに贈呈された。また、この行事を紹介した記事が、翌日 2 月 28 日（火）の北國新聞に掲載された（図９）。

観光地図を紹介した共同発表会　＝県立大

日米学生が観光地図発表

県立大とローズハルマン工科大

県立大の学生25人と米国ローズハルマン工科大の学生20人は27日、野々市市の県立大で、共同制作した同市と白山市鶴来の英訳版観光地図の発表会を開いた。

松野隆一県立大学長があいさつし、両大学生が2人1組になって、旧北国街道の野々市本町通りや鶴来の町並みの特徴を英語と日本語で紹介した。地図制作に協力したボランティアガイドのののいち里まち倶楽部の帆刈宏典会長と県観光マイスターの辻貴弘さんに地図が贈呈された。

学生らは28日、地図をたどり、野々市、鶴来の町歩きを楽しむ。両大学の交流は2年前に始まり、ローズハルマン工科大学生の来日は2度目となる。

図９．北國新聞２月２８日の記事

学生たちは、翌日の午前に自分たちが担当したマップによって、野々市グループと鶴来グループに分かれて、フィールドワークを行った。野々市地区は、水毛生家、郷土資料館、喜多家などを回り、鶴来グループは、一閑寺、獅子ワールド館、白山比咩神社を見学した（図１０）。この頃には、全員が非常に打ち解け、どの場所でもとても賑やかに会話をする姿が見られた。

図１０．野々市のフィールドワーク

このフィールドワークの後、各グループは石川県立大に戻り、昼食を共にし、閉会式を迎えた。ローズハルマン工科大の学生たちの見送りをした後、石川県立大学の学生たちはミーティングを持ち、この活動を振り返った。次に、このミーティングで書かれた学生たちの感想を抜粋する。

６．学生たちの感想とプロジェクトの成果

閉会式後に学生たちが書いた感想は、彼らがこの３日間に受けた感動や発見にあふれていた。A4 の用紙１ページいっぱいにコメントを書いた学生が多く、裏面にも続けて書いた学生もいた。学生たちの主な感想は以下のようなものであった。

- 元々海外には興味がありましたが、今回実施に交流を行ってさらに海外に興味を持ちました。言葉が通じなくても、笑い合い助け合い、絆を結ぶことができて、遠い国の彼らと出会えたことは、私にとって言葉では表わせないほどたくさんの喜びや発見に満ち溢れた経験になりました。しかし、やはりもう少し言葉が通じたらなあと、思うことも多々あったので、英語をもっと勉強したいと思いました。
- 英語の表現力や単語はまだまだ貧しいのですが、このプロジェクトを期に、様々なプロジェクトや英語に触れることを積極的に行いたいと思います。また、もっともっとコミュニケーションがとれるように基礎をしっかり固めたいと思います。
- もっと実用的な英語を学びたいと思いました。メルアドを聞いたので、またメールのやりとりもしてみたいです。居酒屋で英語や中国語のメニューがあって助かったので、そういう経験は食の分野に生かしたい。
- 自分がいかに英語ができないか実感して、もどかしかった。分りやすいように、何回も言いなおしてくれたり、ジェスチャーを使ってくれたが、それでも分らないと申し訳なかった。授業英語だけでなく、本当に関わることが大切だと実感し、もっと勉強して、こういった国際交流の機会に参加したいと思った。とにかく、リスニングと単語力をつけたい。

このプロジェクトでは、合宿後半に見られた学生たちの積極的な姿勢に、教員の方も「教える」ということについて大きな学びがあったと思う。完全に決められたプログラムに乗って活動することによって、少しずつコミュニケーション活動に慣れた学生たちも、自由行動に入って、一気に積極的になり、各自が考えながら動き、話すようになったからである。

また、多くの学生たちが「自分の英語力が足りないことに気づき、もっと勉強したいと思った」と書いているように、自分の英語力の認識と今後への動機づけがされたことも大きな成果の一つである。さらに、今回のプロジェクトでは、こういう学びに加えて、彼らの社会貢献への気づきがあった。日米学生が助け合って作成したマップ英語版を、各地区に贈呈し、人々に喜んでもらえたという満足感が残ったことが、特に貴重なことであったと思う。

７．おわりに

今回の Map Project を振り返ると、人が人から学ぶことの大切さを特に感じる。教員から学生へ知識を伝える伝統的な教育にももちろん大きな意味があるが、今回のように教員が環境や条件を整え、学生たちが自分たちで試行錯誤をしながら学ぶ教育は、広い分野において彼らの将来において大きな力を与えるに違いない。

一般に、自由度の多い教育活動ほど教員にとっては不安な要素が多いものであり、教員の方でもリスクを認識しつつ勇気を持って企画･運営をする必要がある。しかし、今回のプロジェクトにおいて、日本とアメリカの学生たちの共に学び交流を楽しみ、3 日間のうちに大きく成長する姿を見て、このような教育活動に関わる喜びとこの経験が彼らの将来に与える可能性を強く感じた。今回、いろいろな方々の協力を得てこのプログラムが実現したことに深く感謝をしつつ、参加した学生たちのこれからの活躍を心から願うものである。

引用文献

新村知子.　2010.　平成２１年教育改善プロジェクト報告　英語ってホントに使える言葉やったんや！―アメリカ人学生とのメッセージ交換から得た学生一人ひとりの学び―.

資料

合宿スケジュール

Sunday, 2/26 2 月 26 日(日)

Time	event	place, etc.
9:00	県立大生は研修センターのバスで県青少年研修センターへ (県立大出発９時)	バスで移動
10:00	Introdution and ice-breaking activities 自己紹介とアイスブレーキング活動	大研修室
Noon	Lunch at Center 食堂で昼食 (seated in sightseeing groups) (in sightseeing groups 観光グループで)	レストラン
13:00 －14:30	Taiko Concert and Workshop 太鼓コンサートと和太鼓体験 池田美由紀氏	大研修室
15:00	Rehearsal for Map Project presentation マッププロジェクト発表会リハーサル	
17:30	dinner at Center 食堂で夕食 (seating number lottery 座席くじ引きその1)	レストラン
18:30-20:30	KagaYuzen&KutaniEtsuke workshop 加賀友禅・九谷絵付け教室(seating number lottery 座席くじ引きその2、 友禅２６名、九谷２０名)	工芸室、調理室
after that	bath and relax (bedrooms : Room assignments)お風呂・自由時間(bath: 16:00-23:00)	研修センター泊

Monday, 2/27 2 月 27 日(月)

Time	event	place, etc.
7:30	breakfast at Center 食堂で朝食	レストラン
8:30	Ride a bus to IPU (leaving at 8:30) 県立大へ移動	移動
10:00—11:00	RHIT-IPU Project Presentation プロジェクト発表会	県立大大講義室
11:00-12:00	IPU Campus Tour led by IPU students	キャンパス内
12:00-14:00	Sushi Lunch Party お寿司の昼食—手巻きずし、笹寿し、オードブル(笹寿しデモ含む)	学生食堂
14:30～	Sightseeing and dinner, etc. in small groups downtown Kanazawa 小グループで金沢市内観光	金沢市街

Tuesday, 2/28 2 月 28 日(火)

Time	event	place, etc.
7:30	breakfast at Kenshu Center 食堂で朝食 ５２名	レストラン
Check-out at 9:00	Leave Center by bus, in two groups for Nonoichi(with Kuwamura and Yamagishi) and Tsurugi (with Shimmura, Clark and Kukral) 野々市グループと鶴来グループに分かれて現地をまわる。 9:50-11:30 Fieldwork in the Nonoichi or Tsurugi areas with the translated maps マップを持ってまち歩き	野々市と鶴来でフィールドワーク (野々市市のバス チャーターバス)
12:30	Japanese Lunch at cafeteria at IPU (学食にて治部煮定食の昼食) Closing ceremony 閉会式	学生食堂